

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 宮城県気仙沼市立松岩中学校
 種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()
 住所 〒988-0141
宮城県気仙沼市松崎柳沢186番地
 E-mail : matu-jh@hyper.ocn.ne.jp
 Website : _____
 児童生徒数：男子 127名 女子 112名 合計 239名
 児童・生徒の年齢 13歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか (福祉)

4. 活動内容

- (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。
 ※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 ESDでめざすもの

(1) ESDのねらい

活動をとおして、学び方やものの考え方を身に付けさせ、福祉について考えさせる。

(2) ESDで育てたい力（資質・能力及び態度）

- ①学習方法に関すること
 - 情報を収集し分析する力
 - わかりやすくまとめ表現する力
- ②自分自身に関すること
 - 自らの行為について意志を決定する力
 - 自らの生活のあり方を考える力
- ③他者や社会との関わりに関すること
 - 他者と共同して課題を解決する力
 - 課題の解決に向けて社会活動に参加する態度
- ④ESDの視点で重視する能力・態度
 - 批判的に考える力
 - 未来像を予測して計画を立てる力
 - 多角的・総合的に考える力
 - コミュニケーションを行う力
 - 他者と協力する態度
 - つながりを尊重する態度

2 ESDのプログラム

(1) 取組の概要

本校では、平成21年度から総合的な学習の時間を中心に、テーマを「福祉の里づくり」、サブテーマを1年生「互いを知るために」、2年生「先人に学ぶ」、3年生「市への提言」として、福祉について体験学習及び探求活動を行っている。ESDへの取組として、「すべての人」が幸せに暮らせる社会をつくる担い手の育成を目指して、「福祉の里づくり」をテーマに活動してきた。校区内の福祉施設との連携・交流を中心に地域に根ざした「協同的学び」「探究的学び」として取り組み、福祉をとおして「すべての人」のための未来を築く必要性を実感し、その担い手として自覚を高め、積極的に関わる心と態度の育成を目指している。

(2) ESDプログラム（実施）

○1学年

テーマとねらい

【仲間づくり・互いを知るために】

- ・気仙沼支援学校との交流をとおして、互いに認め合い、協力し合う意識を育てるとともに、障害者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

主な活動

福祉講話（障害者福祉について）／支援学校との交流活動（レクリエーション交流、グラウンドゴルフ交流、クリスマス交流）／福祉体験学習／探究学習（個人テーマに基づいた探究活動）

○2学年

テーマとねらい

【先人に学ぶ】

- ・高齢者との交流活動をとおして、人生の先輩として尊敬し敬う意識を育てるとともに、高齢者福祉について考え、福祉に対して主体的、創造的な態度や問題解決能力を育てる。

主な活動

福祉講話（高齢者福祉について）／高齢者との交流（福祉施設訪問）／探究学習（個人テーマに基づいた探究活動）

○3学年

テーマとねらい

【市への提言】

- ・福祉の視点から地域を見直し、問題点や課題を見つけ、その解決方法を調べて市への提言としてまとめる。未来の社会の担い手としての自覚をもち、積極的に関わっていかうとする態度を育てる。

主な活動

福祉講話（ノーマライゼーションについて）／探究学習（個人テーマに基づいた探究活動）

（3）活動の評価の観点と方法

- それぞれの内容毎に設定した評価基準をもとに、生徒の様子を観察したり、探究活動の報告書等からの変容をとらえ、データを蓄積していく。
- 文化祭を表現・発表の場ととらえ、それぞれから福祉を学び、感じたことを様々な形で表現・発表し、自分の考えを広く発信させる。また、他の発表を見聞きすることで、福祉に対する自分の考えをさらに深め、自己の学びにつなげさせる。

3 平成25年度のESDの実践

（1）今年度の取組の変更や改善点

○防災の視点

- ・3年生「市への提言」をテーマとした探究活動の中で、視点の一つとして防災を取り入れた。
- ・1・2年で学習したことを生かし、福祉の視点から見た防災をテーマに探究学習に取り組んだ。

○仮設住宅の方々との交流

- ・昨年度から、校庭に設置されている仮設住宅の方々との交流は取り入れてきたが、今年度も3年生の探究活動の中で、仮設住宅を一件一件訪問しながら調査活動を行った。被災した方々の思いや意見を知ることによって防災や街づくりについて考えを深めることができた。

（2）実践の成果

①プログラムや活動の改善の視点から

- ・3年生で新たに取り入れた防災の視点は、福祉学習の総まとめとして新たな角度から地域を見直す機会となり、さらに福祉に対する視野を広げることにもつながったと考える。

②生徒の変容（資質・能力、態度）の視点から

- ・1学年で障害者福祉、2学年で高齢者福祉について学んだことが、3学年で総合的に地域の福祉を考えることにつながっていた。防災を考える上でも、地域の福祉施設利用者の避難について目を向けるなど、意識の高まりが感じられた。
- ・仮設住宅の方々と話す機会をもてたことで、震災後の新たな福祉のあり方を考えるきっかけとなった。

③教師や保護者、地域住民の意識の変容の視点から

- ・震災後、ニーズの高まる防災への取組と、地域性を生かした福祉への取組を、限られた現状の中で行うことで、それらを別々に考えるのではなく、関連させることが必要なのではないかという意識が高まった。

(3) 次年度に向けた課題と展望

- ・福祉の学習が防災を考える上で生きてくるような、福祉と防災を関連させた課題のあり方を工夫していきたい。
- ・教科、道徳、特別活動などとの関連を再確認し、限られた時数の中で効率の良い活動にすべきである。
- ・新たな取り組みに対する地域人材の発掘、情報収集・発信に努めなければならない。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）